

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立三次小学校	校長	中田 弘幸	生徒指導主事	吉羽 芳晴
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名** 『あんたが大賞』

取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「相互理解」	2	「主体性・積極性」	3	「自己肯定感の向上」	1

**取組のねらい**

児童会執行部が中心となり、全校児童の望ましい姿を紹介したり、掲示したりすることを通して、全校児童の意欲を高めるとともに、自己指導能力を高める。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『やってみたいをやってみよう』
----------	----------------------------

**【本校の課題】**

- 自己肯定感が低く、友達に対して否定的な言葉をかけることが多い。
- 規範的な行動が指導しても定着しにくい。

↓

**【仮説】**

望ましい行動等を取り上げ、児童に周知することができれば、児童相互で自分たちに対する肯定的評価の機会を増やすことができ、児童の自己肯定感も高まるのではないかと考えました。

↓

**【児童会取組】**  
『あんたが大賞』

- 児童会が、校内での児童の良い姿をカメラで撮影する。
- 撮影した写真から、表彰状を作成する。
- 完成した表彰状を校内に掲示する。





**【昨年度からの改善点】**

- 昨年度、教師主体の取組だったが、本年度は児童会主体の取組へと移行する。
- 児童会がカメラをもって、全校集会や学校行事、日常の学校生活の中で、児童の良い姿を撮影する。

教職員：児童が中心となって、活動に取り組んでもらいたい

↓

教職員：児童が主体的に動くためにどうすればよいだろうか？

↓

教職員：児童自身が良い姿を写真でとるのはどうだろうか？  
「やってみよう」

児童：みんなのあいさつのしかたを向上させるために写真を撮ろう

↓

児童：ほかの姿も撮影したい

↓

児童：みんなの良い姿をどんどん撮影しよう  
「やってみよう」

**取組の成果と課題**

- 児童会が主体となって取り組むことで、児童会が意欲をもって取り組むことができた。自分たちで良い姿を撮影するという活動が、全校に意識してほしい具体的な姿をイメージしやすくなり、全校への呼びかけもより具体的になった。
  - 児童相互の肯定的な評価をしている姿はいくらか見られた。
  - 児童会が積極的に写真を撮影するも、思うような写真がなかなかうまく撮れないことがある。写真撮影の練習が必要。
  - 児童主体にする際に、どこまでを児童に任せるかが明確にできておらず、児童は悩んだり滞ったりすることがあった。また、児童会の中でも取組に対して積極的な児童と消極的な児童がおり、積極的な児童に負担になっている場面もあった。児童会全体で分担を明確にし、一部の児童に負担が偏ることのないように、バランスを考えた計画が必要だった。
  - 他の児童会行事もあるため、常時の活動としては、負担が大きい。期間を決めて取り組むなど改善策が必要である。
  - 写真を撮ってから、賞状作成の際に、教職員との連携が遅れ、せっかく撮った写真の掲示が遅れた。
- 【次年度に向けて】**
- ・本年度の取組が児童の自己肯定感の向上につながったか、アンケートを実施し、調査する。
  - ・取組の流れを児童・教師が具体的に決めて活動に取り組む。
  - ・期間を決めて、「どんな姿を全校に知ってほしいか」を決めて撮影する。その後、全校へ周知する。
  - ・撮影から表彰までを見通し、計画的に行う。
  - ・より多くの児童を表彰する。